

平成30年度 京都市域地域医療構想調整会議（第1回Cブロック会議）

日 時：平成30年11月20日（火）14:00～16:00

場 所：京都府医師会館 310 会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 地域医療構想調整会議（ブロック会議）の趣旨について
- (2) 各病院から「病院の役割と今後について」発表
- (3) 地域における各病院の役割について意見交換
- (4) 地域医療データ等の勉強会

4 閉会



【第1回】京都市ブロック部会出席者一覧(団体)

	団体名	役職名	就任者名
C ブ ロ ッ ク	京都府医師会	理 事	関 透 (座 長)
	中京東部医師会	理 事	岡 山 容 子
	中京西部医師会	副 会 長	谷 口 浩 也
	下京東部医師会	担 当 理 事	齋 藤 行 生
	下京西部医師会	会 長	安 田 雄 司
	東山医師会	副 会 長	原 田 剛 史
	中京歯科医師会	一	山 田 香
	下京歯科医師会	会 長	平 野 裕 之
	南歯科医師会	会 長	横 田 誠
	東山歯科医師会	会 長	岡 村 泰 介
	京都府薬剤師会	理 事	松 井 常 孝
	中京薬剤師会	会 長	土 井 邦 子
	下京南薬剤師会	会 長	石 原 順 也
	東山薬剤師会	会 長 代 理	船 越 真 理
	京都府訪問看護ステーション協議会	運 営 委 員	寺 口 淳 子
	地域包括支援センター	京 都 市 健 康 長 寿 企 画 課 担 当 課 長	伊 井 亜 弓
		京 都 市 介 護 ケ ア 推 進 課 担 当 課 長	和 田 幸 司
	京都府介護支援専門委員会	常 任 理 事	高 木 は る み
	在宅医療・介護支援センター(中京区)	欠 席	
	在宅医療・介護支援センター(下京区・南区)	欠 席	
京都市	医 務 衛 生 課 担 当 課 長	吉 岡 葉 子	
京都府	医 療 課 担 当 課 長	松 本 浩 成	

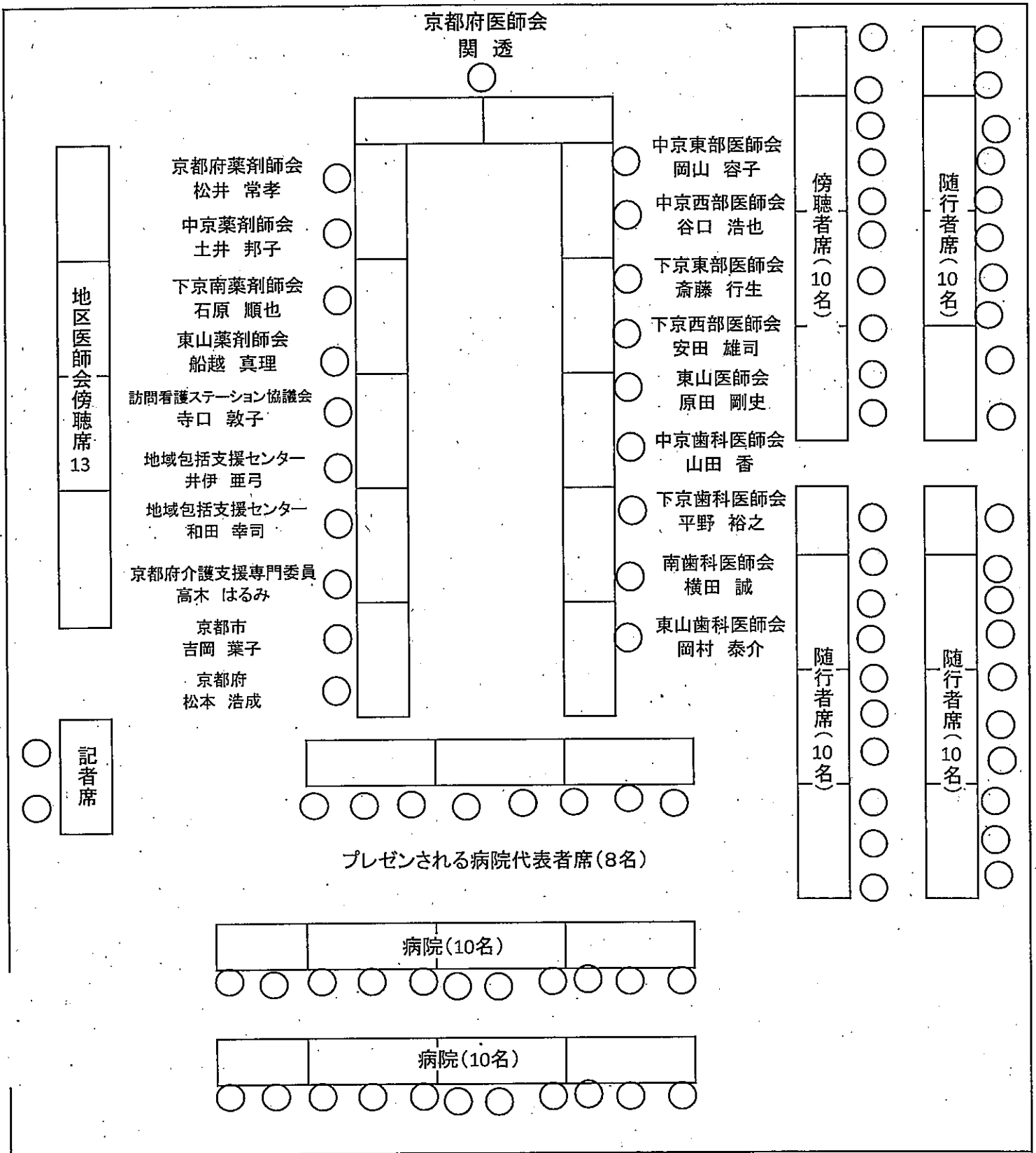


京都市ブロック部会出席者一覧

	No.	施設名	役職名	出席者名
中京	46	京都市立病院	院 長	森本 泰介
	48	医療法人社団洛和会洛和会丸太町病院	管 理 部 長	疋 田 健
	49	がくさい病院	法人事務局 局長	竹 村 淳一
	50	医療法人西大路病院	—	山神 加奈恵
	51	京都通信病院	欠 席	
	52	医療法人毛利病院	院 長	下野 広俊
	53	足立病院	欠 席	
	54	山元病院	欠 席	
下京	55	武田病院	院 長	武 田 純
	56	医療法人社団恵心会 京都武田病院	事 務 長	寺 田 克己
	57	総合病院 京都南病院	事 務 長	齊 藤 史雄
	58	医療法人京都回生病院	事 務 長	海 藻 達
	59	医療法人愛友会 明石病院	業 務 部 長	三 上 滋
	60	木津屋橋武田病院	事 務 長	小 谷 昌弘
	61	新京都南病院	事 務 長	林 起 予 則
	62	医療法人親友会 島原病院	事 務 長	松 下 泰 幸
南	63	京都九条病院	院 長	山 木 垂 水
	64	医療法人財団医道会十条武田リハビリテーション病院	院 長	勝 見 泰 和
	65	医療法人社団親和会京都木原病院	欠 席	
	66	医療法人社団洛和会洛和会東寺南病院	事 務 部 長	小 寺 勝 明
	67	公益社団法人京都保健会吉祥院病院	院 長	清 洲 早 紀
	68	第二足立病院	欠 席	
	69	光仁病院	欠 席	
東山	70	京都第一赤十字病院	院 長	池 田 栄 人
	71	医療法人社団育生会京都久野病院	理 事 長・院 長	久 野 成 人
	72	医療法人原田病院	理 事 長	原 田 剛 史



京都市域地域医療構想調整会議(Cブロック) 配席図





京都市域地域医療構想調整会議の進め方について

【目 的】

平成 29 年 3 月には「京都府地域包括ケア構想」を、平成 30 年 3 月には地域包括ケア構想等を踏まえ具体的施策等を記載した「保健医療計画」を策定

今年度は、これら計画を踏まえ、各関係機関、団体等とより連携を図り、目標達成に向け取組を図る。

【調整会議の進め方】

京都市域を除く各地域医療構想調整会議においては、全病院等が会議等に参画し、意見交換を実施している。

一方、京都市内においては、対象施設が多いため、全病院等が一同に参集することが難しいことから、地域の実情を考慮したブロックに分け、より多くの病院等の参画が得られるよう進める。

概 要		備 考
<p>○ 「救急病院群輪番編成表」の 4 ブロックを参考に、全病院等参加の組織を立ち上げ議論を進める。</p> <p>○ 協議内容により全体会とブロック会議に分け議論を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会⇒ブロック会議の状況把握、ブロックを越えた調整等 ・ブロック会議⇒疾病別医療需要の実状を踏まえた病院機能、在宅医療、介護サービスの連携等 		
(参考)		
区 分	対 象 数	
病院数 (精神科単科を除く)	97 施設 (うち、在支病 : 15 施設)	
診療所数	1,665 施設 (うち、在支診 : 205 施設)	
訪問看護 S T 数	168 事業所	
地区医師会数	13 地区	



【Cブロック】第1回ブロック会議発表資料

行政区	病院名	ページ番号
中京区	京都市立病院	1 ~ 4
	医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	5 ~ 6
下京区	医療法人財団康生会 武田病院	7 ~ 8
	京都武田病院	9 ~ 10
	京都南病院	11 ~ 12
南区	医療法人同仁会(社団) 京都九条病院	13 ~ 14
	医療法人財団医道会 十条武田リハビリテーション病院	15 ~ 16
東山区	京都第一赤十字病院	17 ~ 19



病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都市立病院			
所在地	京都府京都市中京区壬生東高田町 1-2			
許可病床数	548 床（一般病床，療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 528 床 (0 床)	医療療養 床 (0 床)	介護療養 0 床 (0 床)	※一般病床の他に，結核 12 床，感染症 8 床有
主な診療科目 （上位 3 つ）	消化器外科	消化器内科	呼吸器内科	
病床機能 ※平成 29 年度病床機能報告より （結核病棟は除く）	高度急性期 360 床	急性期 176 床	回復期 0 床	慢性期 0 床
主な病院機能	地域周産期母子医療センター（2次周産期医療） 難病医療協力病院 救急告示病院 第二種感染症指定医療機関（結核病床を有する） エイズ治療拠点病院 臨床研修指定病院 災害拠点病院（地域災害医療センター） 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 病院機能評価機構 認定病院（3rdG:Ver1.0）			

等

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院，在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

自施設の現状	<p>当院は、地域がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関との連携強化に努めるとともに、悪性腫瘍手術等の早期対応に向けた麻酔科体制の強化や外来化学療法ベッドの拡充、休日及び時間外のがん治療（放射線治療・化学療法）の実施等、より多くの患者ニーズに応える取組を進めることで、新規がん患者数や手術、化学療法等のがん治療件数について、実績を伸ばしてきた。</p> <p>また、地域医療支援病院として、病診連携の促進に向けて、国の施策に合わせて初診時選定療養費の引き上げによる外来患者の機能分化の促進、事前予約センター等を通じた紹介患者のスムーズな受入環境の構築、地域の医療機関に向けた研修や勉強会、患者や地域住民を対象とした健康教室や出前講座を実施するなど地域全体での医療水準の向上、住民理解を図ってきた。</p>																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規がん患者数</td> <td>1,473</td> <td>1,560</td> <td>1,700</td> <td>1,683</td> </tr> <tr> <td>悪性腫瘍手術件数</td> <td>887</td> <td>942</td> <td>980</td> <td>1,056</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>9,469</td> <td>10,015</td> <td>11,057</td> <td>11,476</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>53.3%</td> <td>56.4%</td> <td>70.9%</td> <td>71.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※初診時選定療養費引上げ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>救急車搬送受入れ患者数</td> <td>6,787</td> <td>5,968</td> <td>6,178</td> <td>5,824</td> </tr> </tbody> </table>		H26	H27	H28	H29	新規がん患者数	1,473	1,560	1,700	1,683	悪性腫瘍手術件数	887	942	980	1,056	紹介患者数	9,469	10,015	11,057	11,476	紹介率	53.3%	56.4%	70.9%	71.5%				※初診時選定療養費引上げ		救急車搬送受入れ患者数	6,787	5,968	6,178	5,824
	H26	H27	H28	H29																																
新規がん患者数	1,473	1,560	1,700	1,683																																
悪性腫瘍手術件数	887	942	980	1,056																																
紹介患者数	9,469	10,015	11,057	11,476																																
紹介率	53.3%	56.4%	70.9%	71.5%																																
			※初診時選定療養費引上げ																																	
救急車搬送受入れ患者数	6,787	5,968	6,178	5,824																																
自施設の課題	<p>① 外来診療</p> <p>かかりつけ医促進の取組は継続して行っているが、再診患者を中心に、外来患者数は年々増加傾向にあり、一層の地域医療機関との連携が必要である。地域包括ケア構想において急性期病院に期待される地域医療機関との連携・支援のあるべき姿を検討している。</p> <p>② 救急搬送への対応</p> <p>平成25年度の建替え、改修以降、当院の救急車受入数は、大きく増加してきたが、救急疾患を手掛ける診療科や総合診療医等の不足等、現行体制では受入困難な症例や状況が生じている。医療圏内の救急車出動台</p>																																			

	<p>数は、年々増加傾向であり、一層の受入強化に向けて、病院全体としての初療対応スキルの向上や効率的な受入体制の構築、ベッドコントロール体制等の組織的な見直しに着手している。</p> <p>③ 手術 がん医療を中心に、高度な医療の提供に取り組んできた結果、手術件数及び手術に占める麻酔科管理件数を大きく伸ばしてきたが、平日日中の手術室の枠が上限に近づきつつある。一層の患者受入れ、手術対応を行うため、より効率的な手術室の運用及び手術室の増設に向けた検討を行っている。</p> <p>④ 認知症への対応 これまでから、職員研修等を実施し、認知症を伴う急性期疾患患者を積極的に受け入れてきたが、認知症患者は今後更に増加することが想定される。継続的に研修等を実施し、事務職まで含めた全職員の対応力向上に向けた取組を行っている。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>4 疾病「がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病」、5 事業「救急・小児・周産期・災害・へき地」のうち、へき地医療を除く 8 領域全てにおいて、必要とされる急性期の医療を適切に提供できる病院として、独法化以降整備し、充実した医療機能・医療提供体制を活用し、地域の中核となる基幹的医療機関としての役割を果たしていく。</p> <p>また、急性期治療から慢性期及び在宅医療に繋げるために、入院から治療、退院までの一連の流れをスムーズにするシステムを構築するとともに、在宅医療等を担う地域の医療機関等との連携を強化し、当院が果たすべき役割を適切に評価しつつ、医療機能の整備を図っていく。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今後の診療報酬改定や地域医療構想調整会議での動きも踏まえつつ、上記の課題解決に取り組み、自治体病院として、引き続き感染症や救急等の政策医療を確実に提供するとともに、当院の持つ高い医療技術や医療機能を活かした急性期医療を提供する地域の中核病院としての役割を果たしていく。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院			
所在地	京都市中京区聚楽廻松下町9番7			
許可病床数	150床			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 150床 (0床)	医療療養 床 (床)	介護療養 床 (床)	
主な診療科目 (上位3つ)	内科	心臓内科	整形外科	
病床機能	高度急性期 6床	急性期 144床	回復期 床	慢性期 床
主な病院機能	救急告示病院 在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院） 急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○救急搬送の受け入れを始め、急性期機能を担う病院として医療を提供している。 ○市街地という交通の利便性を生かし、地域の診療所・病院と連携を深め、地域密着型のサービスを提供している。 ○在宅療養あんしん病院に登録し、在宅療養中の高齢者が体調を崩したとき、必要に応じて入院ができるよう体制整備を図っている。
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○救急要請に対する応需率を上げ、地域の救急医療を支える役割を担うとともに、地域の施設と連携し、医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する体制を強化する。
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○救急告示病院として引き続き、救急搬送の受け入れを積極的に行い、地域の救急医療を支える役割を担う。 ○在宅療養支援診療所等と連携し、在宅療養中の高齢者の受け入れに迅速に対応する地域密着型の医療を提供する。 ○医療・福祉・介護・予防・生活支援を円滑に繋げるための一助を担う。
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○現状の医療機能（入院・外来）を継続する。

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人財団康生会武田病院			
所在地	京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町 841-5			
許可病床数	394 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 394 床 (112 床)	医療療養 一床 (一床)	介護療養 一床 (一床)	
主な診療科目 （上位3つ）	循環器内科	脳神経外科	心臓血管外科	
病床機能	高度急性期 22 床	急性期 210 床	回復期 50 床	慢性期 一床
主な病院機能	地域医療支援病院 救急告示病院 脳卒中（急性期）・（回復期）を担う病院 急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院 外国人患者受入れ医療機関 PET-CT検査実施施設			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○脳卒中、急性心筋梗塞を中心に高度急性期を担う病院として医療を提供。 ○比較的症状の軽い患者から重篤な救急患者まで多様な救急を受け入れている。 ○急性期治療を経過した患者及び在宅において療養を行っている患者等の受け入れ並びに患者の在宅復帰支援等を行う地域包括ケア病床（50床）を運用している。
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院である当院は地区医師会との連携を一層強化し、地域の病院、診療所との役割分担を推進する。 ○地域包括ケアシステムの実現に向け、介護・福祉施設と、入退院時の情報共有や連携強化を図る。 ○多疾病を有する高齢患者の治療のために、診療科横断的なチーム医療を展開する。
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の中核病院として、診療所などでは対応困難な専門的治療や高度な検査、手術等を行なう。 ○救急対応について、救急車等での搬送や地域の医療機関から紹介された、入院が必要と思われる患者について24時間対応する。 ○地域の医療従事者の資質向上に役立ててもらうための研修会や症例検討会を開催する。 ○看護師・社会福祉士などを構成メンバーとした患者サポートセンターを中心に在宅支援機能を強化する。
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化に伴い急性心筋梗塞・脳卒中に加え、医療需要が大幅に増加すると予想される成人肺炎・大腿骨骨折に対応できる体制を整備する。同時に、これらの疾病の重要リスクである糖尿病の専門診療、患者と患者家族の療養指導、重症化予防、地域とのシームレスな循環型連携を推進する。

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都武田病院			
所在地	京都市下京区西七条南衣田町 11			
許可病床数	240 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 240 床 (0 床)	医療療養 〇床 (〇床)	介護療養 〇床 (〇床)	
主な診療科目 （上位3つ）	整形外科	内科	リハビリテーション科	
病床機能	高度急性期 〇床	急性期 60 床	回復期 60 床	慢性期 120 床
主な病院機能	※救急告示病院 ※在宅支援を担う病院（在宅療養後方支援病院） ※脳卒中（回復期）を担う病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○急性期、回復期、慢性期医療を担う病院 急性期は主に整形領域、回復期は高度急性期後の患者を率先して受け入れを行い、慢性期は重度肢体不自由や難病疾患など、当院ではケアミックス型にて医療を提供している。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○地域での病病連携・病診連携の強化 地域包括ケアシステムの実現に向け、在宅療養あんしん病院のシステム化に伴い対応病床確保や、回復期後の一貫したリハビリ提供が行える後方支援病院との連携強化は今後、より一層強化が必要となる。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○介護・福祉施設と連携し、在宅復帰支援を行う かかりつけ医機能を充実させ、幅広い医療ニーズへの対応を行うと共に介護・福祉施設との在宅支援機能の強化は不可欠となる。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○現状を維持しながら、地域医療ニーズの変化に対応する 2025年における地域包括ケアシステム導入を見据えて医療・介護・予防医学を考慮し、時代にあった地域医療を提供できる医療機関として対応が必要。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都南病院			
所在地	京都市下京区西七条南中野町8			
許可病床数	199床			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 199床 (0床)	医療療養 床 (床)	介護療養 床 (床)	
主な診療科目 (上位3つ)	内科	外科	整形外科	
病床機能	高度急性期 床	急性期 199床	回復期 床	慢性期 床
主な病院機能	<p><入院機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般199床（地域包括ケア病棟、障害者病棟） <p><外来機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・標榜科目 25 診療科（1日平均350名）・血液透析（30床） <p><在宅訪問センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養部（訪問診療）、訪問看護ステーション、訪問リハビリ <p><併設事業所></p> <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所 京都市下京西部地域包括支援センター（京都市より受託運営） <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養あんしん病院、臨床研修病院（協力型）、救急二次輪番病院 			

【現状と今後について】

<p>自施設の現状 (自由記載)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域密着型の病院として幅広い疾患に対応している。 ○ 地域包括ケア病棟を有し在宅復帰の支援も行っている。 ○ 院内に在宅訪問センターを設け、在宅療養部（訪問診療担当）、訪問看護ステーション、訪問リハビリの各部署が連携して在宅で療養される患者さんを支援している。 ○ 在宅介護の支援・相談窓口として居宅介護支援事業所と地域包括支援センターを運営している。 ○ 在宅療養あんしん病院に登録し、在宅療養中の高齢者が体調を崩したときに受診いただき、必要に応じて入院ができるよう体制を整えている。
<p>自施設の課題 (自由記載)</p>	<p>○当法人が運営している急性期と救急医療に特化した新京都南病院（当院より南300m）と連携をはかり、当法人は急性期から在宅まで地域包括ケアシステムの一翼を担っていく。</p>
<p>地域において今後担う役割 (自由記載)</p>	<p>○当院は従来より地域の医療機関・介護施設等との連携に取り組んでおり、今後も地域包括ケアシステムの充実に向け更に連携を深めていく。</p>
<p>今後の展望 (自由記述)</p>	<p>○平成27年6月に1病棟を地域包括ケア病棟へ転換。平成28年10月に更に1病棟を地域包括ケア病棟に転換。又本年春の診療報酬改定において新設された地域包括ケア病棟入院料1の届出を行った。今後も地域の医療と介護のニーズの変化に対応していく。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人同仁会(社団)京都九条病院			
所在地	京都市南区唐橋羅城門町10			
許可病床数	207床 (一般病床、療養病床の合計)			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 207床 (0床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 (上位3つ)	消化器内科・外科	循環器内科	整形外科・脳神経外科	
病床機能	高度急性期 0床	急性期 150床	回復期 57床	慢性期 0床
主な病院機能	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・在宅支援を担う病院 (在宅療養後方支援病院) ・脳卒中 (急性期)・(回復期)・(維持期) を担う病院 ・急性心筋梗塞 (急性期)・(回復期) を担う病院 ・リハビリテーション (急性期)・(回復期)・(維持期) 実施病院 			

例示

- ①周産期医療〇〇病院 (センター)
- ②救命救急センター (三次)
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院 (在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院)
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中 (急性期)・(回復期)・(維持期) を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞 (急性期)・(回復期) を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○地域に密着した急性期病院という役割を担っており、救急患者等（年間救急、急患約5,000名）の受入を始め、消化器内科・外科、循環器内科、整形外科、脳神経外科において、高度専門医療を提供し、急性期から回復期の病院として地域医療を支えている。</p> <p>○地域包括ケア病棟（57床）を有効に活用し、効率の良い医療の提供を行っている。</p> <p>○在宅療養あんしん病院に登録（登録患者数約650名）し、病診・病病連携を日頃から、常に密に行い、在宅療養中の高齢者が体調を崩したときに、地域の病院として、スムーズに受診し、必要に応じて入院ができるよう体制整備を図っている。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○地域の中核病院である当院は、救急医療等の機能の充実を図り、高度な医療も提供出来る役割を担うとともに、医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの実現に向け体制を強化する。</p> <p>○現在、院長が地区医師会の理事を担っており、地区医師会等との連携、病診・病病連携は十分に出来ている。今後さらに病院として、現状をより一層強化し、地域の病院、診療所との役割分担を行う。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○地域に密着した急性期病院という役割は、引き続き持ちながら、医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、当院が率先して地域医療連携の推進に取り組み、介護・福祉施設等とも連携強化を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着促進 ・高度専門医療の提供 ・高齢者等幅広いニーズへの対応 ・予防健診の強化 ・在宅支援機能の強化（特に今後取り組んでいく） </div>
<p>今後の展望</p>	<p>○平成29年4月から地域包括ケア病棟（57床）への転換を図り、地域医療ニーズの変化に対応出来ている。今後も常に地域医療ニーズに目を向けながら、現在のスタンスを継続して行く。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人財団医道会 十条武田心リハビリテーション病院			
所在地	京都市南区吾禰院八反田町3番地			
許可病床数	182 〇床 (一般病床、療養病床の合計)			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 182 〇床 (0) (〇床)	医療療養 〇床 (〇床)	介護療養 〇床 (〇床)	
主な診療科目 (上位3つ)	内科	外科	整形外科	
病床機能	高度急性期 〇床	急性期 20 〇床	回復期 100 〇床	慢性期 62 〇床
主な病院機能	+ 地域包括病床 19床 救急告示病院 在宅支援を担う病院 (在宅療養支援病院) 回復期を担う病院 (回復期リハビリテーション病床 100床) 地域包括ケア病床 19床			

例示

- ①周産期医療〇〇病院 (センター)
- ②救命救急センター (三次)
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院 (在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院)
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中 (急性期)・(回復期)・(維持期)を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞 (急性期)・(回復期)を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

自施設の現状

当院ではリハビリテーションの提供を 365 日実施しており、回復期リハビリテーション病棟を 100 床で運用を行っております。また急性期から慢性期まで、地域社会への医療活動を積極的に行っております。診療科は 17 科あり、当院の特徴である整形外科、リウマチ科での高度な先進医療を提供し、更に地域に密着した医療機関を目指してリハビリテーションセンター、血液透析センター、人工関節センター、リウマチセンター、手外科センターを開設しております。

自施設の課題

医療・福祉・介護・予防・生活支援を提供していく地域包括ケアシステムの実現に向け、回復期リハビリテーション機能の体制と、在宅療養支援病院の施設基準も取得し在宅医療を強化していきます。

地域において今後担う役割

- ・ 地域密着への連携強化
- ・ 回復期リハビリテーション機能の提供
- ・ 在宅支援機能の強化
- ・ 整形外科、リウマチ科における高度な先進医療の提供

今後の展望

安全な医療、質の高い医療の提供を基本とし、整形外科、リウマチ科における高度な先進医療の提供を更に充実し、同時に回復期リハビリテーション機能、在宅医療機能を積極的に展開していきます。

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都第一赤十字病院			
所在地	京都府京都市東山区本町15丁目749番地			
許可病床数	652床(一般病床、療養病床の合計)			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 612(※)床 (40床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 (上位3つ)	消化器内科	整形外科	小児科	
病床機能	高度急性期612床	急性期 0床	回復期 0床	慢性期 0床
主な病院機能	総合周産期母子医療センター、救命救急センター(3次)、救急告示病院 京都府基幹災害医療センター、地域がん診療拠点病院、京都府エイズ 治療拠点病院、脳卒中・急性期を担う病院、急性心筋梗塞・急性期を担う 病院、臨床研修指定病院、臨床歯科医師研修指定病院、病院機能評価 3rdG.Ver1.0、地域医療支援病院、DPC 特定病院群、ISO15189(臨床 検査)、総合入院体制加算			

※うち、4床は結核病床。14床は地域がん診療拠点病院として緩和ケア病床への転換も視野にいれ検討中で、現時点では未使用。

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>(1) 救急医療への対応 …ヘリポート保有かつ、救急車経由の緊急入院患者は府内で上位。更に、救命ICUも保有。今後、外傷系での救急対応を強化すべく検討中。</p> <p>(2) 周産期医療への対応 …新生児及び母体搬送受け入れは京都一。「周産期医療情報システム」により、コーディネート業務を行い、3次医療圏での中心的役割を果たす。</p> <p>(3) 災害医療への対応 …府内唯一の「基幹災害医療センター」認定。熊本地震災害救護派遣では府DMATとして調整業務等実施。平成29年2月、国民保護共同訓練(災害訓練)に参加。</p> <p>(4) 小児医療への対応 …小児、新生児科医が20名以上在籍し、施設基準「小児入院医療1」を取得。小児への手厚い医療、看護を提供。</p> <p>(5) 5疾病への対応 …がんについては、血液、乳房のがん取扱件数が府内で上位。がん終末期医療対応として、緩和ケア病棟設置検討。また、がんを含む高度な医療提供対応として、ロボット手術導入を検討。脳卒中は、バイプレーン血管造影装置及び、包括的脳卒中センター化を検討。更に、心血管疾患は、不整脈治療等への対応強化を検討。糖尿病や精神疾患については、多職種によるチーム対応を実施。</p> <p>(6) その他の疾患等への対応 …「手術数でわかるいい病院2017」(朝日出版社)によると、胃がんの内視鏡及び鼓室形成術の実施件数は全国ランキングでは20位台。また、ロボットリハビリ導入を検討。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>人口減少や少子高齢化等の影響に対し、今後とも地域から必要とされる高度急性期医療を「的確」にかつ、「永続的」に提供するための体制を構築していく共に、地域の包括的な医療連携の核として役割を果たしていくことが重要である。</p>

<p>地域において今後担う役割</p>	<p>今後、増加が予測される心血管・脳卒中・外傷疾患への更なる対応強化が必要。また、1・2次救急については、近隣救急告示病院との役割分担が必要。産婦人科や小児科については、集約化が進んでおり、公的医療機関の役割を果たすべく、行政と協力し、周産期医療提供体制の充実を図る。また、日進月歩で進化する医療技術を導入しつつ、外科的・内視鏡的手術、化学・放射線療法を患者に届けるよう、日々努力を継続することが重要。</p> <p>今後、京都府・市が連携して進める「地域包括ケアシステム」に関しては高度急性期病院として、医師・看護師・その他の専門職の派遣等を実施するなど、地域医療へ貢献したい。</p>
<p>今後の展望</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 京都府立医科大学付属病院、京都第二赤十字病院等とのより一層な協力・連携体制を構築する。 (2) 東山・伏見・山科区及び下京区等との近隣地域との連携をより一層強化する。また、近隣の急性期・地域包括ケア・回復期・慢性期病院等とは、連携についてもより一層強化する。さらに、連携内容については、医療に加え教育・システム面等との推進を検討する。 (3) 京都府南部地域における「高度急性期医療の担い手の核」として各医療機関との連携を推進する。

